

29 MAR 2007



第31号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America Air Force Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒105-0004 港区新橋 5-25-1-3

編集：JAAGA事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

ホームページ：<http://www.jaaga.jp/>

平成18年度日米優秀隊員表彰

— 三沢基地における表彰 —

(被表彰者：第3航空団司令部監理部 空曹長 斧澤雅雄
35 AMS, 35th Fighter Wing Lt/COL Stuart A. Lum)



JAAGA award winner, CMSrg.Masao Onozawa

暖冬の続いた三沢に突如訪れた冬将軍で寒い一日となった2月2日、米空軍三沢基地は、下士官クラブで2006年度第35戦闘航空団表彰式を行った。本表彰式において、当協会は日米友好に大きく貢献した米空軍及び航空自衛隊の選抜者をそれぞれ表彰した。JAAGAから竹河内会長、小澤三沢支部長、山本三沢支部事務局長、航空自衛隊から第3航空団司令若林空将補、同監理部長吉原2佐、同准曹士先任小泉准空尉及び被表彰者である同監理部斧澤雅雄空曹長が参加した。

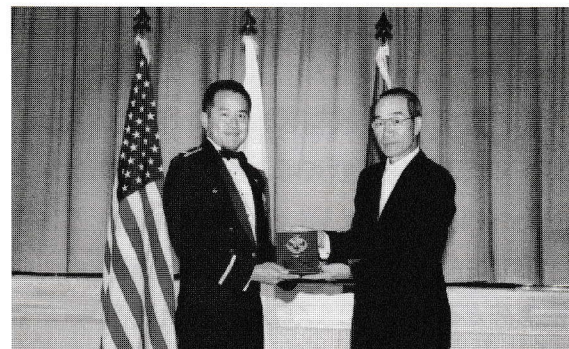
平成18年度は、米空軍第35航空機整備中隊長ステュアート A. ラム空軍中佐と航空自衛隊第3航空団司令部監理部斧澤雅雄空曹長にJAAGA賞が授与された。ラム中佐は航空自衛隊第1術科学校で交換教官を歴任し、航空自衛隊の指揮幕僚課程を修了し、卓越した日本語能力と豊富な知識を活かし、航空自衛隊F-4戦闘機の共同緊急重量物吊り上げ訓練、第35戦闘航空団司令部前におけるF-4展示機設置、初動対処訓練における米空軍化学戦展示等を通じて両国の整備関係者の意思疎通を図る等の功績により、また、斧澤曹長は三沢基地准曹会会長として特に第

35戦闘航空団日米交流担当者との綿密な調整の下、米空軍三沢基地研修、三沢基地綱引き大会等の日米交流行事を積極的に企画・推進すると共に航空自衛隊准曹士隊員と米空軍下士官及びその家族相互間の親睦を深めた功績により表彰された。

司会者からJAAGA及び竹河内会長を紹介された後、会長から両名に感謝状と記念の楯が手渡された。竹河内会長は表彰式への参加に対する謝辞とともに、JAAGAは今後とも日米エアフォースの友好に尽力する旨の挨拶を行った。

その後、第35戦闘航空団の表彰となった。被表彰者で不在者がいたが、その代理は上司、配偶者、お嬢さんと色々であった。不在理由も出張(TDY)であったり、転属(PCS)という説明もあり、制度の違いを感じた。表彰終了後の基地司令官オショネシ大佐のスピーチではJAAGAへの謝意が最初に表明された。JAAGAの活動が高く評価されていることを強く感じた。約3時間にわたったパーティ解散後、被表彰者達はステージ中央に並び、多くの人達の祝福を受けていた。

(小澤三沢支部長記)



JAAGA award winner, LTC Stuart A.Lum

— 嘉手納基地における表彰 —

(被表彰者：第5高射群整備補給隊 1等空曹 相原弘介
18 LRS, 18th Wing MSgt. Thomas L. Scott)



JAAGA award winner, MSgt. Thomas L. Scott

平成18年度のJAAGA沖縄地区の表彰は、平成19年2月3日(土)、米空軍嘉手納基地「前任曹長評議会」の主催による年度優秀隊員表彰晩餐会の場で(共同)実施された。

この優秀隊員表彰晩餐会は、嘉手納基地の「ロッカー」下士官クラブの“ボール”ルームにおいて、夕刻6時からのカクテル・タイムで開始された。第18戦闘航空団司令のモルトン准将を始めとし約300名の参加者は、最上級の礼装を身にまとい、大方は令夫人を伴い和気藹々のうちに集合した。JAAGAからは、中司副会長、名富沖縄支部事務局長、木村沖縄支部員の3名が参加し、また空自那覇基地からは、半澤83航空隊司令、久本5高射群司令、延永5高射群整備補給隊長夫妻、被表彰者の相原1曹夫妻、更には親戚の長田夫妻、ウエルチ夫妻を加えて10名が出席した。

表彰晩餐会は、2006年嘉手納基地優秀隊員候補者64名の紹介で開始され、名前を呼ばれた礼装の候補者はエスコートに伴われ所属隊員の大歓声の中で逐次入場、着席した。護衛された両国国旗の入場、アカベラによる両国国歌斉唱、戦場に倒れ参加出来ない兵士への黙祷などが続き、JAAGA表彰式に移った。紹介を受けた中司副会長は、表彰式への米側協力の謝辞とともに、JAAGAの活動状況の紹介を含む挨拶を行った後、壇上において、日米双方から各

1名の表彰を行った。

日本側の被表彰者は、第5高射群整備補給隊の相原弘介1等空曹で、嘉手納基地で行われたスペシャル・オリम्ピックスへの空自隊員の参加を積極的に調整し、また那覇基地でのエア・フェスタ等への米空軍側出席者への接遇を適切にし、両空軍間の相互理解と友好親善に尽力した功績によるものである。また米側の被表彰者は、米空軍第18兵站即応隊のトーマス L.スコット軍曹で、嘉手納基地の日米下士官相互交換計画担当官として、空自新田原基地の空曹隊員との相互基地訪問交流をリーダーシップをもって計画、実施し、相互理解と友好親善の強化に大きく貢献した功績により表彰されたものである。

JAAGA表彰式に続いて晩餐が始まり、夫々のテーブルを囲み楽しい会話が弾んだ。最後に米側の年度優秀隊員の発表へと移り、各部隊、機関毎から最終的に8名の米軍人等が選ばれ表彰された。それぞれの被表彰隊員は、夫人を伴い壇上で紹介を受け、その都度、所属する仲間からの熱烈な祝福を受けていた。

嘉手納基地の表彰晩餐会は、最初にJAAGA表彰を行うなど日本側に大変配慮されたものであり、ここまで格式を高められた歴代の嘉手納及び那覇基地関係者等のご尽力に深く感謝申し上げたい。

(中司副会長記)



JAAGA award winner, MSgt. Kousuke Aihara

— 横田基地における表彰 —

(被表彰者：防空指揮群本部 1等空曹 田中一夫
人間気象隊 空曹長 田中達男

Chief, Executive Services 374th Airlift Wing MSgt. Kevin E. Wolfe)

平成18年度JAAGA優秀隊員表彰が平成19年2月17日(土)、米空軍横田基地の年度優秀隊員表彰式で実施された。表彰式は、横田基地下士官クラブで夕刻6時からのカクテル・タイムで始まった。第374空輸航空団司令のグッドウィン大佐以下約300名の参加者は礼装を着用し、多くは夫人を伴って列席していた。JAAGAから大串副会長、阪東理事及び山本理事の3名が参加し、航空自衛隊の府中基地から被表彰者、上司の防空指揮群企画科長関岡2佐、同群准曹士先任廣澤准尉が、また人間基地から被表彰者及び同夫人、上司の人間気象隊長河野2佐並びに同隊准曹士先任篠原准尉の計10人が出席した。

表彰晩餐会は、2006年度横田基地優秀隊員候補者63名の紹介で始まった。名前を呼ばれた候補者は所属部隊隊員の大歓声の中、夫人等のエスコートにより入場し、着席した。続いて太平洋空軍軍楽隊隊員による日米両国国歌の独唱、礼拝、JAAGA会員を含む来賓の紹介、戦争捕虜及び戦場行方不明等で列席出来ない兵士への黙祷等の後、晩餐が始まった。軍楽隊の演奏を聞きながらテーブルを囲み、楽しい会話が弾んだ。また、米空軍創設60年ということで、年代順に当時流行った音楽の演奏のもと、その時代々々の制服、飛行服及び作業服等を身にまとった軍人が登壇し、その当時の米空軍に関する20秒程度のコメントを述べる企画があった。

晩餐のあと、横田基地の年度優秀隊員表彰に先立



Annual award ceremony at Yokota AB.

ち、JAAGA表彰式が米空軍下士官の司会により開始された。紹介された大串副会長は、表彰式の米側協力に対し謝辞を述べるとともに、JAAGAの活動等をユーモアを交えて紹介し、挨拶を行った。その後、壇上において航空自衛隊から2人、米空軍から1人を表彰した。

航空自衛隊の被表彰者は、人間基地の人間気象隊田中達男曹長と府中基地の防空指揮群企画科田中一夫1曹であった。田中達男曹長は嘉手納基地でのスペシャル・オリンピック等への積極的参加、人間基地各種行事における米空軍下士官の誠意ある接遇等が認められ、田中一夫1曹は家族交流等を含む日米下士官等相互の密接な協力関係の構築と府中基地音楽祭での通訳及び適切な接遇が認められ表彰に至った。

米空軍横田基地からは第374空輸航空団のケビンE.ウォルフ軍曹が横田基地日米下士官交換計画担当官として美保基地等と横田基地との基地相互訪問の適切な計画・実施により、伝統・文化等の相互理解の増進に貢献されたことが認められたものである。彼らの活動が日米両国間の友好親善と信頼関係の構築に多大な寄与をしたことが高く評価され表彰された。

JAAGA表彰式に続いて米側の年度優秀隊員の発表へと移り、各部隊・機関から最終的に12名の米軍人等が選ばれて表彰された。それぞれの被表彰者は夫人を伴い壇上で紹介を受け、その都度、所属する仲間達から熱烈的な祝福を受けていた。

晩餐会の最後には、エアーマンとしての10項目にわたる誓いが全員で朗読され、米空軍歌の斉唱により会は終了となった。

横田基地の表彰 晩餐会は、最初にJAAGA表彰を行うなど日本側に大変配慮されたものであり、また参加者一同にとって感慨深い記憶に残る大イベントであった。関係者の尽力に深く感謝申し上げる。

(山本常務理事記)

平成18年度日米下士官交換プログラム支援

—航空幕僚監部人事教育部長に支援金贈呈—



Visit M.Gen.Onoda to support JASDF's NCOs exchange program

11月2日（木）、石黒、永岩各常務理事は航空幕僚監部人事教育部長小野田空将補（石井教育課長陪

席）を訪問し、18年度の日米下士官相互研修の空自側受け入れ部隊3個基地に対する支援金を贈呈した。その際、JAAGAの活動状況について説明するとともに、日米下士官相互研修の成果の拡大に寄与できるよう激励した。席上、小野田人教部長から活動に対する理解とお礼の言葉があり、また陪席した石井教育課長からは「ALS（Airman Leadership School）への相互研修も盛んになってきているので、JAAGAからのご支援を宜しくお願いします」との希望があった。

（石黒常務理事記）

—ライト司令官に支援金贈呈—

11月14日（火）、廣瀬企画常務理事と榎渉外常務理事がライト5空軍司令官を往訪し、12月早々から計画されている日米下士官による相互部隊研修（三沢・横田・嘉手納）への支援金を贈呈した。（ロイ先任下士官、ハセベ氏同席）

司令官から開口一番「航空自衛隊と米空軍が極めて緊密であること自体が安全保障上大事なのだ。米空軍と航空自衛隊との強固な結びつきのために諸活動を進めているJAAGAはとても大事なものでありその諸活動に感謝している。」と述べられた。

ロイ先任下士官から、相互部隊研修は



Visit LTG Wright to support USAF's NCOs exchange program

1996年、横田、三沢、嘉手納基地米軍隊員の千歳基地研修から開始されており、近年では研修先、研修人数等でその幅と深さが充実してきており期待どおりの成果が見えてきているとのコメントがあった。

この事業は、元々、1975年から米軍交換将校支援事業として継続していたものであったが、同席しているハセベ氏が将校支援より下士官支援のほうがより効果的であり、またニーズがあるとのリコmendを受けて平成16年度からスタートしたものである。ハセベ氏がいわば本事業の生みの親であることを紹介した。

廣瀬理事から、今年度事業として嘉手納研修、大学生の横田基地研修を計画中で、今後、関係部署と

の調整を密にして行くことを述べた。また、空自では米空軍と同様の先任空曹制度を立ち上げたが、制度の熟成のためロイ先任下士官等米空軍のアドバイスをお願いしたいし、JAAGAとしても、スポーツ等各種行事に参加していただくことでお手伝いしたいと述べた。

最後に、5空軍も空自もいろいろな面で著しい環境変化に晒されている現下、JAAGAの存在目的に添った新事業や要望がありましたら、積極的に取り入れるよう検討したいと述べ、固い握手で司令官室を辞した。

(榎常務理事記)

第35戦闘航空団司令官交代式

ーオショーネシ大佐が着任ー



Change command ceremony of 35th FW

1月17日(水)、在日米軍司令官兼第5空軍司令官ライト中将の執行による第35戦闘航空団司令官の交代式が米空軍三沢基地の第949格納庫内で実施され、JAAGAから小澤三沢支部長が参列した。

式典では米空軍の伝統に則り、離任するアンジェラ准将が指揮官旗を上級指揮官たる第5空軍司令

官ライト中将に返還し、ライト中将が新着任のテレンス J.オショーネシ大佐(Terrence J.O' Shaughnessy)にその指揮官旗を手交し、指揮権が継承された。アンジェラ准将は、ハワイ州キャンプ・スミスの米国太平洋軍戦略企画政策部次長として直ちに出發されたが、子供達の学校の都合により6月まで家族は三沢に残られるとのことでした。

ネバダ州のネリス空軍基地から着任した新司令官オショーネシ大佐は、

式典後に将校クラブにおいて行われた歓迎レセプションに臨まれ、多くの人から歓迎の挨拶を受けた。なお、指揮官交代式に先立ち1月12日に開催されたアンジェラ准将の送別会においてJAAGAへの御協力・御支援に対し感謝を込め記念の楯を贈った。

(小澤三沢支部長記)

恒例となったSPORTEX、成功裏に終了

—多摩ヒルズにて友好親善—



Explanation on SPORTEX'06B at practice green

11月3日（金）、菊薫る文化の日、JAAGA恒例のSPORTEX'06Bが米軍多摩ヒルズ・ゴルフ・コースにおいて行われた。今回は入間基地航空祭と開催日が重なり、JAAGA会員の多数参加が危ぶまれたが、事前PRが効を奏したのか、参加者総数では昨年のSPORTEX'05Bを上回り過去最高となった。航空自衛隊から吉田航空幕僚長以下40名、米空軍からはライト第5空軍司令官をはじめ33名、そしてJAAGAから竹河内会長を含み31名、計104名が競技を行った。

5時のゲート・オープン時には、多くの参加者がゲートに詰め掛け、立ち上がりから意気込みが感じられる様相となった。ドライビング・レンジでの練習、クラブ・ハウスでの朝食を経て、朝日立ち上る多摩丘陵をバックに開会式が行われ、日米相互友好親善の増進とストロング・エアフォースを目指して頑張ろうといった趣旨のライト司令官、吉田幕僚長、竹河内会長のショート・スピーチでSPORTEX'06Bは開始となった。

27組のパーティがそれぞれのスタートホールに移動し、7時、ホーンの合図とともにショット・ガン・スタートで競技が始まった。風もなく快晴で最高のコンディションの中、ボディ・ランゲージを駆使して意思疎通も十分な友好親善の輪がボールを追っかけ、現役の若さ漲るプレーも随所で見られ、競技は盛り上がった。

競技終了後、クラブ・ハウスで反省会を兼ねた和気藹々とした懇談・昼食となり、友好親善の絆が更に助長された。続いて表彰式が行われ、競技者全員の中から優勝、準優勝、3位の3名、ベスト・グロス（スコア：77）達成者、ニア・ピンの4名、ド

ラ・コンの2名の成績優秀者、そしてブービー、ブービーメーカーにそれぞれ賞品が贈られた。そのほか特別賞として第5空軍司令官賞、航空幕僚長賞、航空総隊司令官賞、JAAGA会長賞、そして5位毎の飛び賞と多数の賞品があり、思わぬ賞品ゲットに歓声が上がっていた。特に、総隊司令官賞は、該当が空幕長であったため、多くの拍手と喝采があった。

最後に、吉田幕僚長、ライト司令官、竹河内会長から、それぞれ各人の健闘と日米の友好親善を讃えるとともに、積極的な支援・協力をした多摩ヒルズ側と運営を支えた米側4名・日本側3名のボランティアに対し、ねぎらいと感謝の意を表する挨拶があり、成功裏にSPORTEX'06Bは閉会となった。なお、吉田幕僚長、竹河内会長の表彰式における挨拶（要約）は、次とおりであった。

吉田幕僚長；「今日は非常に素晴らしいコンディションのなか、私を含め皆さんが楽しくプレーをすることができ、また有意義な時を過ごすことができたものと思います。毎回のことですが、JAAGAとこの場を提供してくれた米空軍に感謝をしております。」

竹河内会長；「今日のコンペに日米の多くの方々に参加して頂き、感謝しております。また、皆様が楽しく過ごされた様子に、大変嬉しく思っております。賞を得られなかった方も、十分に楽しめたことと思います。先日、ワシントン等を訪問致しましたが、その折に、日本で勤務された多くの米空軍の方々に会い、親しく話す機会がありました。話した皆さんが航空自衛隊に対して非常に好意を持っておられるのを大変に嬉しく思っております。米空軍と航空自衛隊との友好親善の更なる発展を祈念しております。」
(源常務理事記)

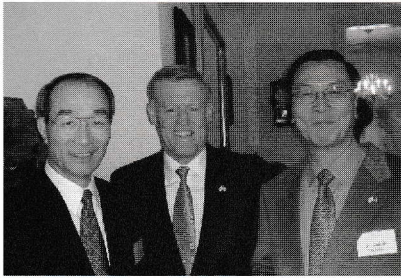


First party of SPORTEX'06B

クリスマス・パーティ

—ライト中将主催のホリデイ・オープン・ハウス—

12月9日(土)、在日米軍司令官兼第5空軍司令官ライト中将ご夫妻の招待によるホリデイ・オープン・ハウスが、米軍横田基地ケニー・コート内の司令官公邸において開催された。公邸の随所にクリスマス・ツリー、オーナメント等が飾られ、クリスマス・ムードが溢れていた。当日午後3時から5時の間の招待客は、航空自衛隊の主要幹部とJAAGAメンバーが主体であった。空自からは航空幕僚長・幕僚副長・空幕各部長・航空総隊司令官・中空司令官等が、JAAGAからは竹河内会長をはじめ阪東・永岩・山本・松井・源の各常務理事が参加した。在日米空軍の各基地から選抜された軍人により結成



With LTG Wright at Christmas party

されたバンドがクリスマス・ソングを奏でる中、招待者の全員が夫婦同伴で気心の知れた航空自衛隊関係者ということで、終始、和やかで暖かな雰囲気であった。ライト中将からは、「1年を通じて、日米の同盟の絆をともに強く築いていくことができたことに感謝しますとともに、皆様の労をねぎらいたいと思います。皆様には個人的には良き友人として、仕事上でも様々なことを教えて頂き感謝しております。」旨の挨拶があった。最後に「アジア太平洋地域の平和と安全を」



Christmas party at LTG Wright's residence

と、参加者の仕事にピッタリの曲名の“Let There Be Peace On Earth”を合唱し、パーティは閉会となった。

(源常務理事記)

'07横田基地友好団体賀詞交換会

—横田基地と4クラブ合同による新年会—

1月21日(日)、午後6時から、横田基地下士官クラブにおいて「横田基地と4クラブ合同による新年会」が開催され、JAAGAからは竹河内会長、理事3名、会員2名がそれぞれ参加した。4クラブとは、「福生・横田交流クラブ」、「瑞穂・横田友好協会」、「あきる野・横田交流クラブ」及び「羽村・横田友好クラブ」の総称であり、昨年までは「福生・横田交流クラブ」主催による新年会であったが、本年から横田基地と4クラブ合同の新年会となったものである。

儀仗隊による



New Year party at Yokota AB.

国旗掲揚、尺八による日米両国家の演奏で始められ、主催者の紹介・挨拶等が行われた。横田基地司令グッドウィン大佐は、「皆様新年明けましておめでとうございます。記念すべき新年会を横田基地で開催できることを基地司令官として大変光栄に思います。今年は米空軍誕生からちょうど60周年に当たります。この伝統は私達の誇りです。今日初めてのこの新年会がお互いの理解を深め、地元と横田基地との友好をさらに発展させる機会になることを願っています。それは世界の平和と安全に寄与することでもあります。今年の皆様のご多幸を祈ります。有難うございました。」と挨拶を行った。新年会は鏡割り、乾杯、食事・歓談と続き、さらには PACAFバンドによるジャズ演奏で大いに盛り上がり、最後には「手締め」が行われ、その幕を閉じた。

(源常務理事記)

賛助会員の空自・那覇基地及び米軍・嘉手納基地の研修

— 両基地の活動状況に深い感銘 —



At 18th Wing headquarters

1 全般

平成18年3月1日・2日の両日、JAAGA賛助会員による那覇基地と嘉手納基地研修が実施された。コマンド・ブリーフ、講話を通じての全般理解、那覇基地ではF-4ファントムのデモ・スクランブル、ペトリオット発射地区研修、嘉手納基地ではF-22ラプターの実機遠望、F-15、KC-135の実機研修を通じ日米安全保障体制の重要性を再認識して頂き、友好親善を図るという本研修の目的は十分に達成されたと思う。

参加者は富士通の前川通氏を研修団長とし、法人賛助会員代表の加藤久夫氏、個人賛助会員の加藤幸彦氏が各副団長を勤め、総勢34名の研修団であった。

JAAGAからは廣瀬、榎、宇都宮、新井、北村の5名の常務理事が参加した。

入間基地では富田中警団副司令の出迎え・見送りを受け定刻08:00に特別便C-1は那覇基地に向け離陸した。中継地の福岡空港では山崎西警団司令がわざわざ出迎えて頂き、本橋飛行隊長を交え主要者

としばし懇談して頂いた。

2 那覇基地研修

参加者全員の精進の賜物の好天で、加えてこの時期には珍しい弱い向かい風で予定より30分早く那覇基地に到着した。早速基地内の一番の高台にある砲台を見学した。基地の全貌、基地を取り巻く那覇の町並み、滑走路の奥に見える南シナ海、春霞に包まれている慶良間諸島の眺望に沖縄に来たのだと実感した。

基地内で景観最高の基地食堂で、南混団司令浦山空将主催の昼食会が催された。この日は色鮮やかな「お雛様」メニュー、日矢落ちる海コバルト・ブルーとなり、半澤那覇基地司令、射場南警隊司令、久本5高群司令、早坂南混団幕僚長、遠藤南混団総務部長が左右のJAAGA会員に熱っぽく語られ、和気藹々、話の尽きない昼食会であった。

南混団司令は沖縄を中心とした地図を示しながら、南混団の任務、沖縄の歴史を背景とする県民性、沖縄に於ける米軍の存在意義、中国軍勢力の現状など



At trace of battery, Naha AB.

に付き、とても分かり易く講話をして頂いた。

その後、特段の配慮でアラート地区に移動、待機所の壁に貼られた諸外国の戦闘機写真の数々、全般状況及び緊張余儀なくされる5分待機状況をGスーツに身を包んだパイロットが説明、説明は温和であるが体全体から発する自信と自負は研修者に「ご苦労様です」、「ありがとうございます」、「お願いします」との念を髣髴とさせるものがあった。

デモ・スクランブル、アッという間にエンジンが唸りアウト・ハンガー、腹に響くエンジン音、何とも言えない排気ガスの匂い、バイザーを下げたヘルメットが沖縄の日を反射しつつタクシー・アウト。研修者全員、其の迫力に言葉を失っていた。第5高射群発射地区に移動、ペトリオットPAC3導入で話題性もあり、全般説明に続く発射機の見学では、質問が尽きることがなかった。

3 嘉手納基地研修

嘉手納基地ではPOCである普久原さん、當間さん、宮良さんの出迎えを受け、VOQにチェック・イン。各部屋には第18戦闘航空団司令官・モルトン准将の歓迎メッセージと何事かあったら直接、副司令官に申し付けてくれと電話番号が書かれており、その気遣いに心の琴線に触れる何かを感じた。

本研修では司令官が不在の為、副司令官のケネディ大佐がホスト役で夕食会に臨まれた。18時からのカクテル・タイム、将校クラブの重厚さに研修者一同多少緊張気味であったが、那覇基地から83空隊司令、南警隊司令、5高群司令、南混団幕僚長、それに石

津沖縄支部長、名富事務局長が参加され、米側参加者も交えビール・ワイン・カクテルを飲みながら打ち解けていった。

米側から整備群司令官を除く、運用、任務支援、医療、施設各群司令官、団先任下士官等が出席して頂き、賑やかに会食が進んだ。アトラクションとして拳龍同志会の小学生、中学生による沖縄空手の演舞が披露された。9名の演舞者は全国大会、九州大会、沖縄大会での優勝者又は入賞者であり、其の迫力と素晴らしさに喝采の拍手を惜しまなかった。

当日3月1日は不肖小生の誕生日、サプライズ・アタックのハッピー・バースディの合唱、ケーキに6本のロウソク、「嬉しくもあり、嬉しくもなし人生の一里塚」の還暦誕生日に花を添えて頂き、アメリカらしい気遣いに感激を新たにした。

ディナー終了後、当将校クラブのラウンジに移り、研修団の2次会に移った。相互に打ち解けて、延々と話は尽きなかった。

2日、嘉手納基地は任務支援軍司令官・カーシュバル大佐、2006年カデナ基地最優秀軍曹と最優秀上級軍曹が朝食にお付き合い頂き、アメリカン・バッフェを楽しんだ。なお、JAAGA表彰されたスコット軍曹は転勤のため一緒できなかった。

第18戦闘航空団の司令部に於いて、副司令官によるコマンド・ブリーフを受けた。嘉手納基地の地積は基地だけで三沢、横田両基地がすっぽり入る20平方キロ、更に弾薬庫地区はこれより広い25平方キロで、基地人口は2万4千人とのことである。アメリカ西海岸からインド洋まで、また北極から南極までを担任する太平洋軍に於ける沖縄の位置付け、キー・ストーンなる由縁等を事細かく説明された。

会員から「今年創立された13空軍との関係は如何に?」、「米側から見て空自が更に充実すべき機能は何か?」、「任務支援軍司令からなぜ医療群司令、施設群司令は独立しているのか?」等の質問があった。航空機等の研修時間が無くなるとのアナウンスで腰を上げる程、熱心に聞いていた。

エプロン地区に60個近く直線に並んだF-15の格納庫で、第67飛行隊長コーニッシュ中佐が直々説明

してくれた。彼のコール・サインは「ドック」とのことであったが、ハリウッドの映画スター並の美男子、全員で記念撮影をした。

基地内移動時、バスの中からF-22型機を見ることができた。写真撮影は厳禁であった。この日、基地はダウン・デーであったがF-22部隊だけは訓練を実施、ファイナル・アプローチ、タクシー、ランプ・インの姿を目に焼付けることが出来た。

第909空中給油飛行隊では副飛行隊長スチール中佐がKC-135の操縦席及びブーム・オペレータの場所に導きながら説明をしてくれた。空中給油ミッションはパイロット2名とブーム・オペレータ1名の3名だけで遂行されると聞き、其の厳しさを実感した。

嘉手納基地での最後の行事の昼食会は、下士官クラブで運用群司令官ヘンケル大佐がホストで実施された。F-15飛行隊長、KC-135副飛行隊長が参加、それにF-22飛行隊長のトリバー中佐が急遽駆けつけてくれた。

トリバー中佐は43歳、選ばれし者という独特の雰囲気を持ち、研修者からの質問に丁寧に応えてくれた。F-22のパイロットは、F-15又はF-16のパイロットから転換するとのことである。フロリダのティンダル基地で1ヶ月の座学、その後25時間のシミュレータ訓練を経てソロ飛行（複座型は無い）に移り、7ヶ月の飛行訓練の後に部隊配属になるとのことである。因みに隊長の飛行時間は320時間で最

多とのことであった。「F-15、F-16との差異?」、「F-22相互の訓練の仕方、アグレッサSQはないのか、レーダで見えないのにどうするのか」等の質問が尽きなかった。

本研修間、第18戦闘航空団副司令官ケネディ大佐が全行程に同行され、コマンド・ブリーフはもちろん、要所々々では自らも説明をされ、研修団一同はその熱心さと暖かい接遇に大いに感激した。

那覇基地経由で入間に帰ったが、入間基地では廣中中警団司令が勤務時間外であったが出迎えて頂き、全員に労いの言葉を頂き、本研修への支援の手厚さを改めて知らされた次第である。

タイトなスケジュールでしたが研修者一同は那覇基地、嘉手納基地の活動状況を実地に見聞き深い感銘を受け、大変有意義な研修であった。

(榎常務理事記)



Delegation, backed by F-15

那覇基地及び嘉手納基地研修の所感

富士通株式会社

特機プロダクト事業部長 前川 通

今回の研修においては、格段のご支援、ご配慮を頂いた航空自衛隊の関係者の皆様と、米空軍第18航空団との日程、宿舎等の交渉を出発前日まで交渉して頂いたJAAGAの皆様へ深く感謝致します。航空自衛隊那覇基地および米軍嘉手納基地においてそれ

ぞれの指揮官によるブリーフィングを受ける貴重な機会を頂いた。北方の脅威から南西方面への脅威への変換、中国軍艦による油田海域への出動の常態化などに対する国民の関心度の深化の必要性を痛感し、さらに、嘉手納基地では、第18航空団は、極東に止

まらず太平洋 - インド洋までの地域を包含した広範なエリアの安全保障を維持する重要な任務を帯びており、特に日本をパートナーとして捉えているとの副司令官の言葉の重みを感じ、日米安全保障の重要性について再認識したのは、筆者だけではないであろう。

嘉手納基地内の移動中のバスの中から、駐機中のF-22を窓越しではありましたが観察することができ、その雄姿に感激した。昼食時には飛行隊長のトリバー中佐と懇談でき、搭乗までの訓練状況やフラ

イトの感覚等貴重な生の意見を聞くことができた。その他、数十機駐機しているF-15は圧巻と言う他なく、KC-135空中給油機には後部にある給油ブーム操作席まで案内して頂くなど非常に貴重な体験をさせて頂いた。

今回の参加者は、法人と個人会員による29名と、大変お世話になったJAAGA 5名の総勢34名であった。1日目の早朝の集合から、2日目18時の予定通りの入間到着まで、振り返れば非常に密度も濃く、会員相互の親睦も深まった有意義な研修であった。

那覇基地／嘉手納基地研修の所感

三井物産エアロスペース株式会社

エンジン部 エンジンチーム 小林 孝

3月1日及び2日の二日間にわたり「JAAGA 嘉手納基地等研修」として、航空自衛隊那覇基地（南西航空混成団）及び在日米軍嘉手納基地（第18戦闘航空団）を訪問、見学させて頂きました。

今回の研修では航空自衛隊・在日米軍の高官の方々及び業界他社等の方々と交流を深めることが出来、また実機等を直に見学することで研鑽を深めることが出来たという点で大変有意義なものでございました。

研修は自衛隊機のC-1輸送機に搭乗し、那覇基地に向かうことから始まり、那覇基地では団司令を始め高官の方から那覇基地の概況をご説明頂きました。那覇から日本最西端の与那国島までの距離は、東京から徳島の距離と同等であるというご説明により、沖縄周辺の地域は非常に広域で複雑な地域であることに初めて気付きました。また、第83航空隊の方々からはアラート体制についてご説明頂き、実際にF-4EJ改のデモスクランブル発進の演習を見学させて頂きました。

一方、嘉手納基地では、基地の方々との夕食懇親

会、翌朝の朝食懇親会に続き、団副司令より嘉手納基地の概況をご説明頂きました。この説明の中の、嘉手納基地は極東最大の空軍基地であり、総面積は横田基地と三沢基地を足したものの2倍以上あるということからも、沖縄という場所の重要性を認識致しました。バスの中からではありましたがF-22を遠望することが出来ました。F-15及びKC-135の見学では、機体の各部分の説明を丁寧にして頂き、航空機の性能や運用に関し理解を深めることが出来ました。また、昼食懇親会ではF-22のパイロットの方と面談する機会があり感激しました。

本研修においては、米軍基地の中で一晩過ごし、基地で暮らす方々から色々なお話を伺ったことで、在日米軍の方々の生活の様子を知ることが出来たことも自分にとっては大きな収穫であったと感じております。

最後に、このような貴重な機会を設けて頂き、また研修中にご尽力頂いたJAAGAの皆様と、各基地等でご配慮頂いた関係者の皆様方に心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

大学生の横田基地研修

— 獨協大学生による研修を支援 —



Dokkyo University students visit Yokota AB

平成19年2月22日（水）、獨協大学学生約29名と引率教官2名による在日米軍・横田基地研修が行われ、JAAGAから遠竹理事長ほか3名（榎・阪東・双石各常務理事）が本行事を支援した。この研修は、遠竹理事長が昨年、獨協大学の全学総合講座において安全保障概論を講義した際に、在日米軍に関心を持ち、「是非、研修したい」との申し出があり実現したものである。

当日は、穏やかな晴天に恵まれ、絶好の研修日和であった。当初、学生代表2名と引率教官、遠竹理事長以下3名の常務理事が在日米軍司令官ライト中将を表敬訪問し、「研修を引き受けて頂いた謝礼」を述べた。司令官は通算して約10年日本で勤務する幸運に恵まれたこと、更には日米同盟の歴史や日米同盟が極東の平和と安定を維持する上で重要な役割

を果たしていることについて説明し、同盟を強固なものにするためには、相互の対話が重要であるとの話があった。そして、本日はブリーフィングの後の質疑応答を特に楽しみにしているとの期待が述べられた。

その後、将校クラブで、在日米軍の概要と第5空軍についてのブリーフィングが行われた。在日米軍の概要については、ライト司令官自ら説明を実施された。在日米軍の歴史や主要任務、安全保障条約と地位協定、日本の戦略的位置と極東における安全活動、共同訓練の状況や在日米軍の課題等についてであり、わかり易く踏み込んだ説明が行われた。その後、質疑においては、学生から「イタリア駐留米軍と在日米軍の違い」、「北朝鮮からのミサイル攻撃への対処要領」「横田の管制圏の返還問題」、「日米の



At Gen.Wright's office

軍隊が対等の立場にあるのか」、「基地の外で訓練しているのか」、「三沢に米軍が駐留する理由は」等の活発な質問が行われた。それに対し司令官は、時折ユーモアを交えながら丁寧に説明を行っていた。

約10分の休憩の後、第5空軍の概要について広報部のナザリオ大尉がブリーフィングした。わが国周辺の脅威の状況、太平洋空軍や第5空軍の組織編制、日本に駐留する部隊の戦略的重要性と共同訓練内容、イラクに派遣される輸送機部隊に対する支援、米軍の再編に伴う在日米軍の再配置等について説明があった。その後昼食までの間、質疑が行われた。最後に司令官から学生に対して、「日米の同盟関係はどのように強化すべきか」、「中国と北朝鮮についてどう思うか、軍事的脅威にどう対応すべきか」との質問があり、学生の応答も的確であり、学生にとっては日米安全保障体制について考える良い機会となった。質疑応答は延々と続き、ライト司令官が急遽、これからのランチョンを各テーブル毎のワーキングランチにしようと提案され、司令官には13時までの約束をかなりオーバーしてまで、学生に対応して頂いた。

各テーブルには在日米軍側から3～4名ホストが付き、大きなアメリカンステーキを楽しみつつ、議論を活発にしていた。

昼食の最後に、遠竹理事長が「本日のこの学生の基地研修というプログラムは、JAAGAの目的を少

し広く解釈し、「広報」あるいは「目的達成に必要な事業」であると考えています。これからも毎年継続していきたいと考えておりますので司令官、副司令官をはじめ皆様のご理解、ご協力が得られれば幸いです。」とのお礼の挨拶をした。

午後からは、南風が強く吹く中であったが、UH-1、C-21、C-130の航空機見学がおこなわれ、説明をしたクルー員とともに記念写真を撮影した。

最後に、AFNスタジオ見学をし、撮影器材や音楽放送現場を見て回った。

予定した約7時間の研修は、瞬く間に終了した。帰路のバスの中では、ライト司令官をはじめ関係者の方々の親切・丁寧な対応についての謝意とともに、在日米軍と直接触れ合い極めて有意義な研修ができたこと、できれば来年もまた計画したい等の感想が述べられ、16時に福生駅で解散した。

今回の研修は、米国のチェニー副大統領が来日している多忙な日程の中、ライト司令官自ら半日ホストを務められた。日本の将来を担う若人に、「日米安全保障体制の重要性を理解してもらおう」との熱意がひしひしと感じられた研修であった。

(双石常務理事記)



"Question&Answer" time

横田基地を訪問して

獨協大学外国語学部英語学科3年 高柳美樹

2007年2月22日、「横田基地研修」という普通の学生では体験できない絶好のチャンスに恵まれ、貴重な経験をさせていただき大変ありがとうございました。遠竹理事長を初めとする日米エア・フォース友好協会（JAAGA）の皆様には大変お世話になり、厚く御礼を申し上げます。

横田基地研修を通して、私が感じたことは主に二つあります。

一つめに、私を含め日本国民は日米同盟についてもっと深く考えることが必要であると感じました。日本のメディアにより、地域住民の横田基地反対運動などが報道される中で、私は在日米軍に対して消極的な印象を持っていました。しかし、実際は違いました。私が知識不足であったため、在日米軍の位置づけに対して偏った意見を持っているということに気づかされました。在日米軍ミッションブリーフィングの中では、在日米軍司令部の歴史、日米相互安全保障条約に基づく職務任務、地位協定、そして日本の戦略的位置についてご説明がありました。私が強く感じたのは、日米同盟は日本の安全を保障しているだけでなく、極東アジア全域に対する安全保障を約束しているのだと思いました。日本だけでなく、極東アジア全域の安全保障を確立するためには、日米同盟が強固で親密なものでなければならないと強く思いました。それを実現するために、私達日本国民が在日米軍に対して、知識・理解を深めることこそが重要であると強く感じました。ライト司令官のお話の中に、地域住民との間の協調をはかる努力がなされているとご説明がありました。戦略的位置にある日本に住む日本国民が防衛に対する理解を高め、基地との共存・共栄を図るために、もう一步、日本国民が歩みよることが必要であると思いました。

二つめに、在日米軍の方はとてもフレンドリーである印象を受けました。ライト司令官自ら、私達の

素朴な質問に耳を傾け、そして分かりやすく丁寧に説明してくださりました。ワーキングランチにおいても、在日米軍の方が各テーブルにいらっしやっただけで、質問を投げかけやすかったです。私は、海軍の方と国際法に携わっている方と一緒にすることができ、普段のお仕事内容や生活についてお伺いすることができました。それぞれの役職で全うすべき責任と使命があることを具体的に伺い、大変勉強になりました。緊張している私達に、ユーモアも交えながら在日米軍の方は優しく接していただき、大変嬉しく思うと同時に、とても身近な存在に感じることができました。こうした、人と人との交流が互いの理解を深め、日米同盟を強化することに繋がるものだ本当に実感しました。1人でも多くのアメリカ人の友達を持ち、日米の交流を深めていこうと思っております。

横田基地研修では、在日米軍・第五空軍のブリーフィングの他、UH-1、C-21、C-130の航空機を実際に目で見て触って、コックピットまで拝見することができ、とても感激しました。防衛だけに留まらず、人員や物資の輸送に携わっていることを始めて知り、在日米軍の職務の幅広さも実感しました。そして最後に、AFN放送局の見学をしました。在日米軍の方が自らアナウンサーとなり、テレビ・ラジオを製作しているとは思わなかったので、大変驚



Explanation on aircrafts

きました。

7時間という時間は本当にあっという間に過ぎました。今回の研修では、日米安全保障のほんの一部を見たにすぎないと思います。今私達に求められているのは、日米同盟の重要性を再確認し、将来を担う私達ひとりひとりが自ら考えていかなければなら

ないと強く感じました。お忙しい職務の中、私達のために貴重な時間を設けていただき、ライト司令官をはじめとする在日米軍の皆様、そして今回の研修を支援して下さった日米エア・フォース友好協会の皆様にはとても感謝しております。ありがとうございました。

米軍基地視察の感想

法学部・法律学科4年 田川 敦士

今回の米軍基地視察で私が一番印象に残ったのは、ライト司令官の「米軍は日本国に招待されて仕事をしている」という発言である。

日本では、基地の移動の問題や近隣住民のとのやり取りなどをメディアを通じてみると、日本の土地に嫌々滞在させてあげてるかのように聞こえてくる。小さい頃から日本のメディアを通じて情報を得てきた私にとっては、ライト司令官の言葉には衝撃を受けた。しかし、冷静になって考えてみると、日本人は都合のいいことばかり言っているように感じてきた。日本は第二次大戦後、憲法のなかで戦争の放棄を謳ってきている。憲法9条の解釈はいろいろあるが、米軍に頼っているのは間違いない。また、集団的自衛権でも、日本は権利は持っているが行使はできない。これも解釈はさまざまなのかもしれないが、つまり日本は、戦争の悲劇を知り二度とそれを繰り返さないために戦いを放棄したわけだが、いざ有事になった場合は米軍に守ってもらい、自分は無傷で、傷を負ってしまう可能性のあるのは日本を守ろうとしてくれた米軍ということになる。

日本国民はもう一度、日米同盟の大切さ、米軍基地の重要性を考えたほうがいいのかもわからない。日々の生活での騒音などの精神的なものや、基地周辺であるがゆえの危険性などもあるかもしれないが、我々日本国民は命を守ってもらっている。私は米軍基地の近隣住民ではないためこのような事が言えるのかもしれないが、いざという時に日本の自衛隊は機能するのか、今の日本はきっと憲法の解釈、自衛権の解釈をしているうちにやられてしまう気がする。こ

のように考えると、やはり米軍に頼っているのが現状ではないだろうか。日本の現状では、ライト司令官が言われた「米軍は日本国に招待されて仕事をしている」というのは、その通りだと思わざるを得なくなかった。

米軍としても近隣住民に迷惑をかけていることは承知のようだった。しかしその中で、近隣住民の人たちとうまくやっていこうと努力しているとも言っていた。私はその一環である、横田基地で行われるお祭りと、米軍基地内の小学生の野球チームと日本のリトルリーグという野球チームの交流試合も経験したことがある。確かに日本国や日本国民にとって負担な部分もあると思うが、理解し共存していかなければ、北朝鮮の核やミサイルの問題や、中国の宇宙の問題などで、いざ日本だけでどうにもならなくなってからでは遅いという事を、今一度再確認しておいたほうが良いのではないだろうか。

以上のような事を、ライト司令官から逆質問していただいたときに述べたかったのですが、頭がまわりませんでした。

話は変わりますが、時間上質問できずに疑問に思った事が、教育問題である。アメリカ本土にいる人と基地内にいる人とは教育に差が出ないのか。やはり基地内にいる人はいろいろな制限や、本土ではできる事をできなかったり、逆に基地内でしか経験できない事もあるかもしれないが、いずれにせよ、もしまた機会があればぜひ聞いてみたい。

最後になりましたが、このような素晴らしい企画を提供していただいた全ての方々に御礼申し上げます。

… 新入会員紹介、会員募集 …

1 正会員

氏名 勤務先	〒	住所（上段：自宅、下段：勤務先）
田口 純	904-0116	沖縄県中頭郡北谷町北谷2-8-14
高橋 健才	350-0151	埼玉県比企郡川島町八幡3-6-6
川崎重工業(株)	105-6116	東京都港区浜松町2-4-1

2 個人賛助会員

氏名 勤務先	〒	住所（上段：自宅、下段：勤務先）
佐藤 正 廣	114-0032	東京都北区中十条3-2-9
ニュースキンジャパン(株)	163-1323	東京都新宿区西新宿6-5-1
井川 栄 子	243-0813	神奈川県厚木市妻田東1-10-33-201
佐藤 正 久	331-0821	埼玉県さいたま市北区别所町105-4-805
安延 哲	212-0054	神奈川県川崎市幸区小倉1-1-F510
昭和飛行機工業(株)	113-0034	東京都文京区湯島1-3-4、KT御茶の水聖橋ビル

会 員 募 集

今期は関係各位のご努力で正会員2氏、個人賛助会員4氏、の計6氏の入会を得ることができました。中に、個人賛助会員として初の陸上自衛隊のOBがおられます。ヒゲの隊長としてイラク人道復興支援等で活躍された佐藤正久氏です。今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、個人会員の入会につきましては、次のとおりです。推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接、会員担当の係から連絡させていただきます。

【入会資格】

正 会 員：航空自衛隊のOB

個人賛助会員：航空自衛隊のOB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

【連絡先】

【郵便】〒105-0004 東京都港区新橋5-25-1-3

日米エアフォース友好協会 会員担当 行

【電話：メール】 宇都宮 靖：横浜ゴム(株) 03-5400-4722 y.utsunomiya@mta.yrc.co.jp

新井 洋一：新東亜交易(株) 03-3286-0339 yo-arai@sda.shintoa.co.jp

鬼塚 恒久：三井生命保険(株) 03-3213-0270 onitsune@w5.dion.ne.jp

正岡富士夫：三菱重工業(株) 03-6716-4319 fujio_masaoka@mhi.co.jp